

それにもかかわらず

奨励	キョンリム・シン・リ [きょんりむ・しん・り]
奨励者紹介	ウエズレー神学校副総長 米連合メソジスト教会牧師

さて、イエスがカファルナウムに入られると、一人の百人隊長が近づいて来て懇願し、「主よ、わたしの僕(しもべ)が中風で家に寝込んで、ひどく苦しんでいます」と言った。そこでイエスは、「わたしが行って、いやしてあげよう」と言われた。すると、百人隊長は答えた。「主よ、わたしはあなたを自分の屋根の下にお迎えできるような者ではありません。ただ、ひと言おっしゃってください。そうすれば、わたしの僕はいやされます。わたしも権威の下にある者ですが、わたしの下には兵隊がおり、一人に『行け』と言えば行きますし、他の一人に『来い』と言えば来ます。また、部下に『これをしろ』と言えば、そのとおりにします。」イエスはこれを聞いて感心し、従っていた人々に言われた。「はっきり言うておく。イスラエルの中でさえ、わたしはこれほどの信仰を見たことがない。言うておろが、いつか、東や西から大勢の人が来て、天の国でアブラハム、イサク、ヤコブと共に宴会の席に着く。だが、御国の子らは、外の暗闇に追い出される。そこで泣きわめいて歯ざしりするだろう。」そして、百人隊長に言われた。「帰らなさい。あなたが信じたとおりになるように。」ちょうどそのとき、僕の病氣はいやされた。

(マタイによる福音書 八章五—一三節)

百人隊長の信仰

私の恩師の方々が、かつて学ばれた同志社で説教することとなり、光栄でございます。招待してくださった原誠先生をはじめ、同志社の方々に感謝いたします。

今、日本が経験している東日本大震災による苦痛を考えると、切ない思いで心がいっぱいです。現実の出来事だとは信じ難い状況をニュースで見えておりますと、自然の災難を前にして、人間の限界を前に感じ、悲しんでおりました。それと同時に、私を含む世界中の人びとが驚いたことは、災難に対処する日本人の秩序、冷静沈着な行動や忍耐強い一面でした。そのような日本人の人びとに深い尊敬の念を覚えます。そして、日本はこの苦難を乗り越え、再び立ち直れるものと私は信じています。経済的・国家的な損失も早く回復されるように願いますが、心の苦痛と衝撃、傷もできるかぎり早く癒されますように神の助けをお祈りいたします。

日本だけでなく、苦難や心配がない国はありません。個人の生活も同じでしょう。いくら幸せに見えても、辛くて心配になる部分があり、完璧に見えても他の人が知らない苦痛と逆境があり得るのです。それが人生であり、現実であります。そして今日は、そのように問題・痛み・心配があるとき、どうすれば良いのか共に考えてみたいと思います。

先ほど朗読した聖書の御言葉は一人の百人隊長とその僕、そしてイエスの物語です。一人の百人隊長がイエスに近づいて、自分の僕が中風で苦しんでいるので癒してくださいと頼むことから、この物語が始まります。イエスに懇願すること、これが問題解決の最初の段階であります。

皆さんは如何に簡単な問題でも、自分の思った通りにならない経験をしたことがありますか。私たちは人間ですので、いくら賢くても知恵があっても、すべてを見ること、知ることはできません。ですから私たちは判断を間違えることもありますし、間違った判断によって、状況が悪くなってしまいます。また問題が複雑で、難しいのであれば、自分の知識や能力に頼らず、神に助けを求めます。問題の解決は、自分の限界を認め、神の助けを懇願することから始まります。

百人隊長は大きな力と権力をもったローマの官僚でしたが、自分の力で解決できないことがあるということを知り、イエスに助けを求めました。この百人隊長の懇願に素晴らしいものがありました。主イエスが「わたしが行って、いやしてあげよう」と言われたとき、「ただ、ひと言おっしゃってください。そうすれば、わたしの僕はいやされます」と言ったのです。イエスはこの信仰に感心し、今まで、イスラエルの中でさえ、「これほどの信仰を見たことがない」とほめました。そして僕を癒し、問題を解決してくださいました。では、イエスを感心させた百人隊長の信仰の根源は何だったのでしょうか。

百人隊長はこれように説明しました。「わたしも権威の下にある者ですが、わたしの下には兵隊がおり、一人に『行け』と言えば行きますし、他の一人に『来い』と言えば来ます。また、部下に『これをしろ』と言えば、そのとおりにします」。つまり彼の信仰の根源は、周りの人びとを信頼することでした。

人々への信頼、イエスへの信仰

私はこの百人隊長の置かれていた状況を羨ましく思いました。「どのようにすれば周りの人びとがそのように従うようになるのだろうか」と。しかしよく考えてみると、私が羨ましかったのは、百人隊長が置かれている状況ではなく、自分の周辺にいる人びとに対する彼の信頼であったということが分かりました。百人隊長の時代の人びとが皆、完璧だったはずはありません。当時の人びとも百人隊長の話に従わず、彼を悩ませたこともあったでしょう。しかしそれにもかかわらず、百人隊長は彼らを信頼しました。そしてその信頼はイエスに対する信仰につながりました。イエスはこの信仰に感心し、「あなたが信じたとおりになるように」と祝福してください、問題が解決されました。主イエスに懇願する人は多くいますが、信仰をもって懇願する人は少ないのではないかと思います。そして、私たちは百人隊長にそのことを学ぶべきだと思います。

今日、イエスに対するそのような信仰を、私たちのなかで、社会で、教会で見つけることができるでしょうか。もしできないなら、なぜでしょうか。百人隊長がそのような信仰をもって一番大きな理由は、彼が軍人であるからでも、時代が違うからでもありません。自分の下にいる人が不完全な人にかかわらず、悩ませる人にかかわらず、周辺の人びとを信頼するからであります。つまり私たちが羨むべきことは、信じづらい状況でも、信頼する根拠が見えなくても、それにもかかわらず、信じる百人隊長の姿勢であります。

私たちは私たちの周りの人びとに対してどのような信頼をもっているでしょうか。友人・親・先生・国に対して、また自分自身に対して、どのような信仰をもっていますか。私たちはよく、「態度で示してくれば、信じる」と言います。私たちが信じるように相手が先ず努力し、証拠を見せるまでは信じない、ということです。しかし証拠を見て信じるのは、本当の信仰ではありません。ヘブライ人への手紙一章一節に確かに次のように記録されています。「信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです」と。見えないことを確信することが信仰です。私たちが神を信じることは見えるからではありません。イエスの誕生と復活を信じるのも、見たからではありません。見なくても信じること、証拠がなくとも信じること、それが真の信仰です。

今、皆さんの目に見えているのはどのようなものなのでしょうか。自分自身のなかで、学校や社会のなかで、私たちの目に見えることは問題や困難なことばかりかもしれません。もっていることより、足りないことのほうがもっと大きく見えるかもしれません。このとき、私たちはこの百人隊長から学ぶことができます。それは、信仰をもって神様に祈ることです。

今日私たちの生活や社会に、解決されない問題が多くある理由は、私たちの判断や計算が足りないからというより、これを乗り越える信仰がないからであります。科学的分析・常識・理性だけでなく、より良い社会に変えることはできません。この世界をより良いところに変化させるためには、信仰をもって神に祈らなければならないのです。

実は、私たちが多くのことを、挑戦もせずに諦めてしまうのは、ただ常識や経験だけに頼り、それ以上を信じないからです。たくさんの方が失敗で終わるのは、目に見えることだけを信じて頼るからであります。私たちが目に見えないことを信じ、信じられる証拠が手元になくても、それにもかかわらず主なる神を信じ、人びとを信じる時、私たちの生活・家庭・職場・教会・国・世界には、(今まで)私たちが考えさえしなかったことが起きると信じています。信仰は、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです。

無条件に信じること

最後に、一人の女性の物語を紹介したいと思います。以前、韓国で実際にあった話です。結婚して十数年が過ぎても、妊娠できない女性がいました。三十五歳を過ぎると女性の家族と親戚は赤ちゃんを諦めました。しかしその女性は諦めず、絶えずお祈りを続けました。その女性の心には、「サムエルの母ハンナの祈り」を聞いてくださった主なる神が、自分のお祈りも聞いてくださるに違いないとの信仰がありました。そして彼女は、子どもができたなら、サムエルのように神に捧げると約束し、お祈りを続けました。神に捧げるといふ意味は、牧師に育てあげることです。

結局、四十歳近くになって子どもが生まれました。しかし彼女は悩んでいました。なぜならその子どもが娘であったからです。当時韓国では、女性が牧師になるというのは想像もつかないことでした。彼女は、神の御心が何であるのかを理解しようと、さらに熱心にお祈りしましたが、よく分かりませんでした。後にその女性は、そのときのことを振り返りながら次のように言いました。「私は、神さまは私との約束をきくと果たしてください、とただただ無条件に信じることを決めました。なぜなら、私がどうすれば良いかはわからなくとも、神さまはご存じであるはずだから」と。

しかし、その娘は母の望みとは正反対に進みました。誰かに「大きくなれば何になりたいの」と聞かれると、「私はまだ何になりたいか分からないけれど、なりたくないことが一つあります。それは牧師です」と答えていました。そのことを聞く度に、彼女はとても心配しましたが、「無条件に信じる」と決心したことを覚え、ただお祈りを続けるだけでした。二十年、三十年が過ぎても、状況の変化は起きませんでした。しかし彼女は諦めませんでした。

後にその娘はアメリカに渡り、三十五年振りにアメリカの教団の牧師になったのです。彼女は娘が初めて行った聖餐式に参加しました。また、今でも娘の説教のある時間には、韓国で祈っています。神さまは信じたとおりに成し遂げてくださいました。

信仰とは望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです。愛する皆さん、皆さんはこの学校とこの国にどのような信頼をもっていますか。先生と友人に、そして特に自分に、どのような信頼をもっていますか。皆さんの信頼・信仰でイエスを感心させてください。皆さんの信じたとおりに成し遂げられますように、祝福いたします。